

# 「どこをほめたらいいですか???'」

竹下 幸喜

みなさん、ほめていますか？ ほめる達人 竹下幸喜です。

この頃、PTA・学校関係の方々、企業の方々の前で講演をやらせていただく機会が増えてきました。

その時によく質問されることが、

「テスト期間に、勉強しないでテレビばかり見ている。ゲームばかりしている、そんな息子のどこをほめたらいいですか？」

「社員がよく遅刻をする、そんな彼のどこをほめたらいいですか？」

というように、「きちんとやってほしいことがあるのにできていない。そんな人のどこをほめたらいいか？」といった傾向の質問です。その質問にはこう答えています。

「ほめたくないときは、ほめなくていいですよ。」と。

無理してほめることはありません。それを無理してほめると心が苦しくなり、逆に「おべんちゃら」や、「おだてる」言葉になってしまい、相手の心に響きません。ましてや自分の心が窮屈になってしまいます。「ほめ達」のほめるは、「叱らないことではない!」のです。

ですから叱らなければならないときは、しっかりと叱ってください。叱る事によって相手の価値を伝えて・認めてあげる事もできるのです。逆に言うなら、あなたからほめられても嬉しくない、という人からほめられても全然嬉しくないものですが、叱られたのに「こんな所まで見てくれた。

ありがとうございます。」と思うときがあります。それは自分の事をしっかり見ていてくれる、本気で心配や期待してくれている、という気持ちが相手に伝わった時です。

叱るというのは相手に関心があるというメッセージ。「あなたの実力はこんなものじゃない。」「私はあなたがもっとできると思っている。」といった「すべての人の成長と可能性を信じる」そんな「叱り言葉」をかけていただきたいと思います。

そして大切なのは、叱らなければならない場面が来る前に、普通に過ごしている時に、どれだけ相手の価値を認める言葉かけができていくかです。目の前の人には必ず、厳しい事を言わなければならない場面が起こります。その時にどうほめようと迷うのではなく、その人が順調に生活している時、仕事をしている時に良い所を見つけて、それを伝えていただきたいのです。「あ、この人は自分の事を見てくれている・認めてくれている・愛してくれている。」という気持ちや感情が普段から伝わっていれば、叱らなければならない場面が来た時に、相手の心に言葉が響きやすくなるのです。普段の生活の中で、目の前の人の良い所をたくさん見つけて、そしてしっかりと伝えていっていただきたいと思います。

Profile

竹下 幸喜(たけした こうき)

1967年生まれ。

一般社団法人 日本ほめる達人協会  
特別認定講師

ほめる子育て研究所 所長 竹下幸喜  
企業や子育てに「ほめて、認めて、  
励ます指導」を広げている。

